

目 次

□巻頭言 技術革新と整備……………森 木 泰 光/ 1

整備総論……………青 沼 英 明/ 3

整備の実態

日本鉄道建設公団……………櫻 澤 昇/ 5

大林組……………竹 内 靖/ 9

国土開発工業……………野 村 昌 弘/14

西尾リース……………西 尾 晃/18

新 電 気……………小 沼 光 雄/23

東洋内燃機工業社……………柴 田 敬 蔵/26

グラビア——最近の整備車とフィールドサービス

建設機械整備業の実態……………森 木 基 裕/31

最近の建設機械の整備性……………杉 山 庸 夫/39

車両系建設機械定期自主検査の動向……………米 島 文 作/42

安全と整備……………尾 崎 英 作/46

□随 想 フライホイール……………久保田 榮/50

海外に対する整備サービス

整備の問題点……………中 野 俊 次/52

整備の現状……………越 智 昇 平/54

最近の整備機器……………志 村 市 郎/58

潤滑油管理と省エネルギー対策……………北 條 靖/62

新版「建設機械整備ハンドブック」の編集にあたって

……………二 宮 嘉 弘/67

土工機械の整備関係 ISO 規格……………内 田 一 郎/69

□新機種ニュース……………調 査 部 会/72

□文献調査

州全体に広まったアスファルト再利用/舗装再利用はすぐれた工学である/1980年代の地下工事を担うロードヘッダ……………文献調査委員会/77

□整備技術

騒音に関する復習……………整備技術部会/80

□統 計

建設工事受注額・建設機械受注額・建設機械卸売価格の推移……………調 査 部 会/83

行事一覧……………/84

編集後記……………(松尾・田辺・兼子)/86

◀表紙写真説明▶

三菱アスファルトフィニッシャー MF 90

三菱重工業株式会社

本機は国産最大の舗装幅員 3~9m の全油圧式大型アスファルトフィニッシャーで、高速道路、空港工事などの舗装工事に最適な機種であり、次のような特長を有する。

① スクリードの締固め装置にタンパ・バイブレータ方式を採用、均質で密度の高い締固め効果により、きめ細かく平坦性にすぐれた舗装仕上がりが得られる。

② オペレーションおよびメンテナンスの容易化を図るため全油圧、全自動による比例制御機構など最新のコントロールシステムを採用している。

◀主な仕様▶

- 舗 装 幅：本体スクリード 3m  
エキステンション付最大 9m
- 舗 装 厚：10~300 mm
- ホッパ容量：15,000 kg
- 総 重 量：20,400 kg
- エンジン：三菱 8 DC-20 C 型ディーゼルエンジン、出力 146 PS/1,400 rpm、最大トルク 80 kg-m/1,200 rpm

なお、本機の性能試験を昭和 55 年 11 月に建設機械化研究所で実施した。近日中に試験結果報告書が発刊される予定である（本誌 4 月号に性能試験結果の一部を掲載予定）。